

奈良・酒船石遺跡

さかふねいし

- 1 所在地 奈良県高市郡明日香村岡
- 2 調査期間 第一四次調査 二〇〇〇年(平12)六月～一月
- 3 発掘機関 明日香村教育委員会
- 4 調査担当者 相原嘉之
- 5 遺跡の種類 宮殿関連遺跡
- 6 遺跡の年代 飛鳥時代～平安時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(吉野山)

酒船石遺跡は飛鳥の小盆地の東、「酒船石」がある丘陵に位置する。一九九二年に丘陵の北斜面で大規模な土地造成痕跡と石垣遺構

が発見され、『日本書紀』
 斉明二年(六五六)是歳条
 に「宮の東の山に石を累ね
 て垣とす」(岩波日本古典文
 学大系本による)と記され
 るものにあたりと考えられ
 た。二〇〇〇年には丘陵北
 裾の谷底から、亀形石造物
 などの導水施設や石敷・石

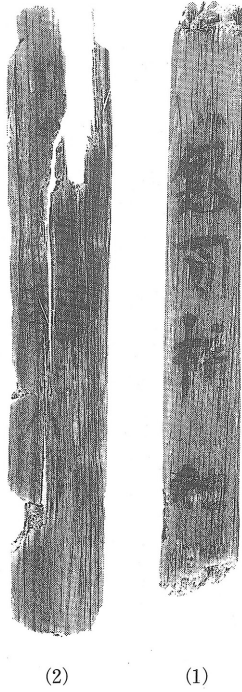
垣が発見された(第二・一三次調査)。

今回の調査は第二二次調査地の北側の様相を解明するための
 で、調査面積は約一二〇〇㎡。調査の結果、亀形石造物の尾から延
 びる石組溝がさらに北へと続くこと、その両側には石段があること
 が判明した。また、南北溝の西側でこれらの石段よりも古い石段を
 確認し、遺構の重複関係も推定できるようになった。その結果、こ
 の地域では七世紀中頃～一〇世紀初頭までを五時期に区分すること
 が可能となり、I期は七世紀中頃、II期は七世紀後半、III期は七世
 紀後半～末、IV期は九世紀後半、V期は一〇世紀初頭と考えられる。

木簡は、幅一・六mのIII期の南北石組溝SD一B東肩の裏込め
 土から、木屑とともに出土した。木簡と共存する遺物は極めて少な
 く、時期を決定し難いが、I期を埋める整地土からは飛鳥I～IIの
 土器が出土すること、石組溝埋土からは飛鳥IV～Vの土器が出土し
 ていることから、木簡の帰属する年代は飛鳥II～IV(七世紀中頃か
 ら後半)の間と推定される。

8 木簡の积文・内容

- (1) 椅 神 (149)×18×(10) 081
 [殿間カ]
- (2) 薦二尺四寸 154×23×3 032
 [V□□□]
- (3) 120×(13)×4 032
 [V□□□]



(171)×(21)×3 081

(4) (1)は、上端・下端ともに折損。左右両側面は原形をとどめる。裏面は裂けている。一字目も下端から上に向かって削られ、削り残りの状態である。三文字目の門構えはカギ状に書する字体か。六文字目は門構えの残画と思われる墨痕がある。歴名簡の一部か。(2)は、上端が一部欠損するが、四周原形をとどめる。二文字目と三文字目の間は欠損、もとは文字があった可能性もある。四文字目「薦」の字体は「薦」である。二尺四寸の薦に付けた荷札か保管用の付札であろう。(3)は、左側面割れ。(4)は、上端および右側面は原形をとどめる。下端は折損、左側面は割れ。下端部に墨痕が確認できる。

9 関係文献

明日香村教育委員会 『明日香村遺跡調査概報 平成一二年度』

(二〇〇二年刊行予定)

(1)7・9 相原嘉之、8 山下信一郎(奈良文化財研究所)